

住宅火災・放火火災の実態の概要 (令和5年中)

※住宅火災による死者・負傷者は自損によるもの及び消防職員・消防団員を除く
 ※住警器等とは、住警器及び自火報等を含むもの
 ※住警器等設置状況別の死者発生件数は死者及び負傷者の両方が発生した件数を含む

第1章 住宅火災の実態

住宅火災の件数

過去10年間で増減はあるものの、住宅火災件数は平成28年以降、1,500件台から1,600件台で推移している。

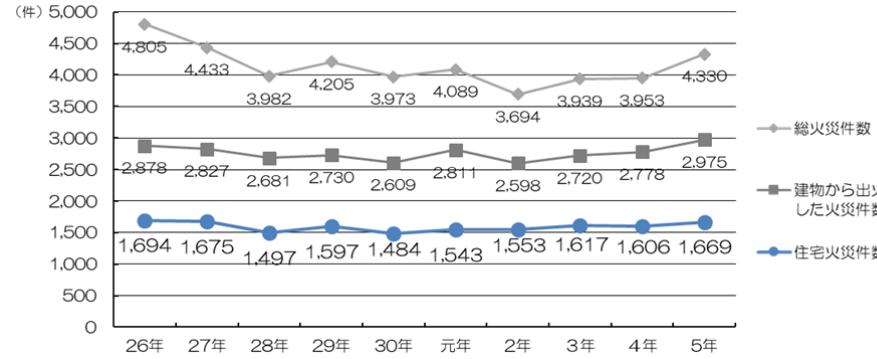


図 過去10年間の住宅火災件数等の推移

住宅火災の死者数

令和5年中、前年に比べ死者は4人減少している。過去5年間の高齢者の死者は7割前後と高い割合で推移している。

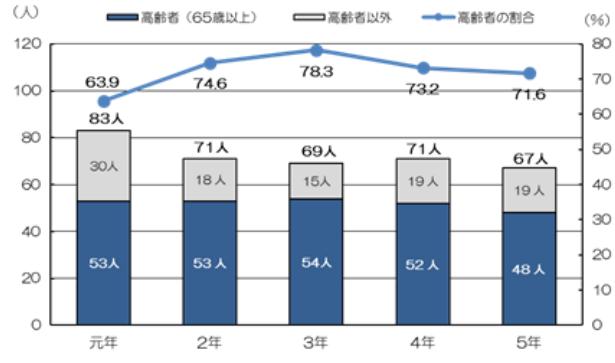


図 過去5年間の住宅火災の死者と高齢者の割合

住宅火災による死者の世帯構成

令和5年中は「高齢者一人暮らし」世帯で最も多く死者が発生している。

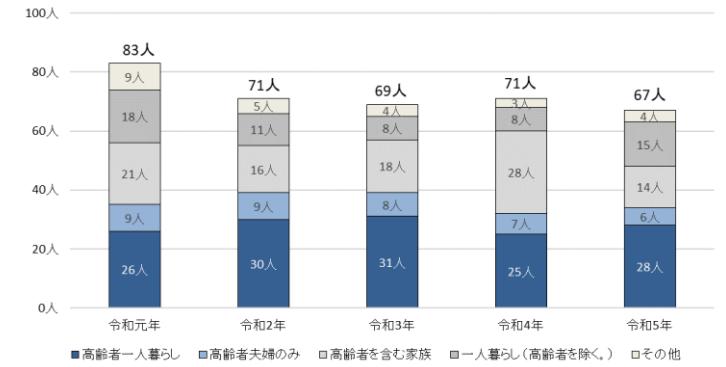


図 過去5年間の住宅火災の世帯別死者数

住宅火災の出火原因

住宅火災の出火原因は、「こんろ」によるものが最も多い。

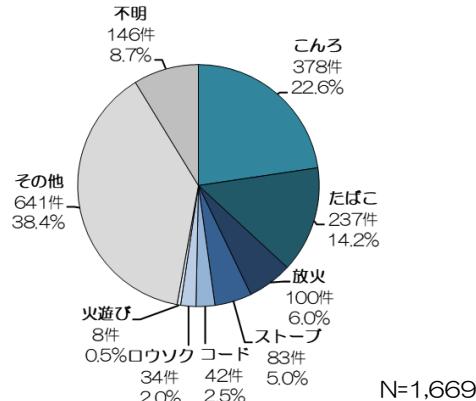


図 住宅火災の出火原因

死者が発生した住宅火災の出火原因

死者が発生した住宅火災の出火原因は、「たばこ」によるものが最も多い。

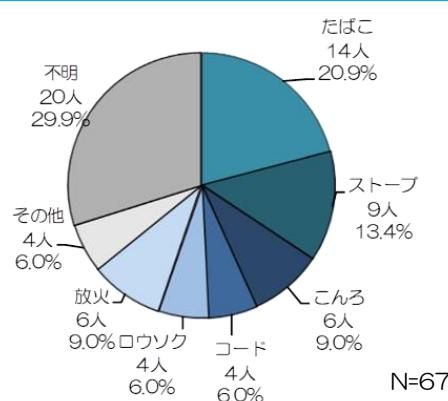


図 死者が発生した住宅火災の出火原因

高齢者の住宅火災の件数と死者数

住宅火災の高齢者の割合は約3割であるのに対し、その死者の高齢者の割合は約7割と高い。

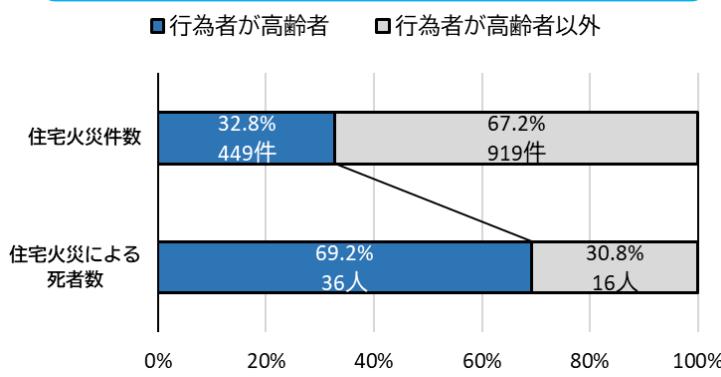


図 住宅火災件数とその死者数の行為者年齢構成比較

人口10万人あたりの住宅火災による死者数

高齢者の人口あたりの住宅火災による死者数は、非高齢者と比べ5倍以上多い。

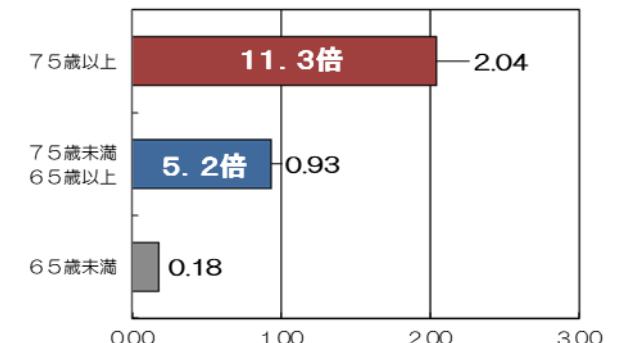


図 人口10万人あたりの住宅火災による死者数

住警器等設置状況別の比較

住警器等設置状況別に、火災100件あたりの死者発生件数、火災1件あたりの焼損床面積及び損害額を比較すると、住警器等の「設置あり」の方が被害が少ない。

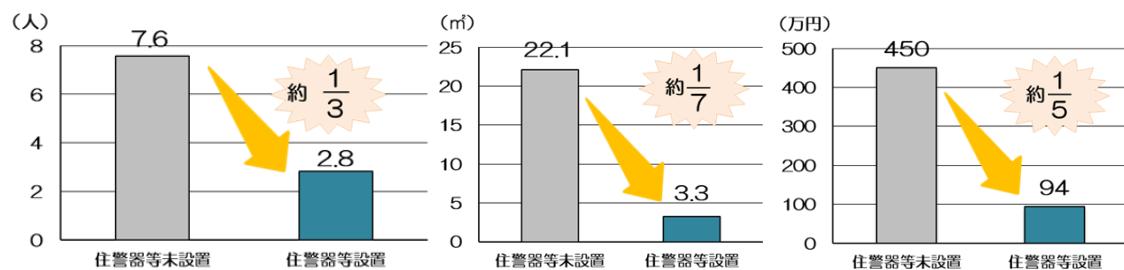


図 火災100件あたりの死者発生件数

図 1件あたりの焼損床面積

図 1件あたりの損害額

第2章 放火火災の実態

放火火災の発生件数

放火火災の件数は減少傾向であり、平成28年から1,000件を下回っている。

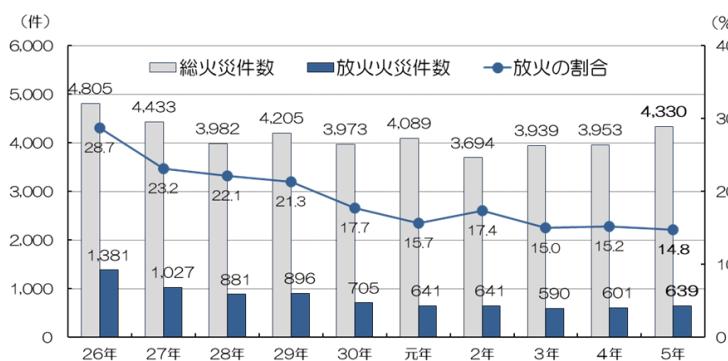


図 過去10年間の放火火災件数等の推移

放火火災の発生時間帯

令和元年から令和5年までの過去5年間に於ける時間帯別にみると、14時台から3時台までの時間帯に多く発生し、建物外からの出火が約6割~7割を占めている。

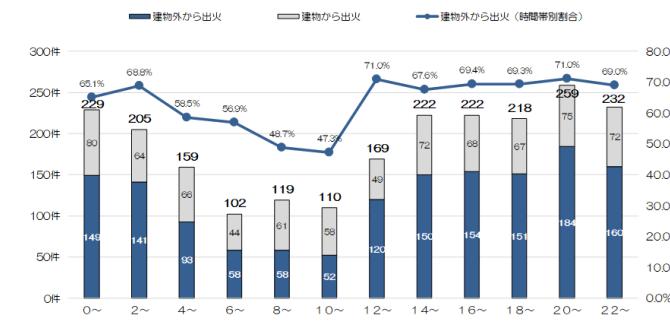


図 時間帯別放火火災発生状況 (令和元年から令和5年まで)